

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

17,18年度2回の外部評価をした際に、利用者の個人主体の生活も良いが、リビングルームで利用者全員で過ごせるきっかけ作り、理念を具体化するために、活動スローガンを掲げて皆で活動する、利用者の自発的な多様な活動を示すホーム作り等々の提案をした。

平成17年9月に設立して約2年半経過したが、今回訪問してまず感じた事は、ホームの全体の印象が“生活臭が漂ってきた”ことを強く感じたことだった。木材をふんだんに使い、土壁造りの和風建築の広い立派な建物で、ハードな面が目立ったホームで、個室もフローリング部分と畳敷き部分があり、起きている時に友達と過ごせる所と寝る時に使う部分のある立派な居室がある。どこもピカピカの家という印象を受けていた全体が、リビングルームでは、利用者の作品が貼ってあったり、利用者の生活ぶりが振り返られる写真等が貼ってあり、利用者本位の生活臭を表現していた。リビングルームに朝から利用者が一緒に過ごしている姿を見る事ができた。両方のユニット共リビングルームに絶えず人が居てテレビを見たり、利用者同士話しをしている。特にリビングルームは、食卓部分、畳敷きの部分、ソファがある寛ぎの部分があるが、利用者は友達とそれぞれの部分で楽しそうに過ごしている姿が見えた。もちろん、自分の居室で一人で、あるいは友達と自分たちの時間を過ごしている人も居て、個人の生活と全体の生活両面で生活している様子を見る事ができた。利用者の共同作業の足跡があった。季節を思わせる作品づくりや皆で小学校との交流会に出掛けたり、生徒がホームを訪れて慰問してくれている。毎週土曜日の午前中に、理学療法士が訪問してくれ、両ユニットの利用者全員が片方のリビングルームに集まってリハビリをしていた。皆が輪になって、専門のリハビリの指導を受け、身体をしっかりと動かしていた。利用者は男性と女性が半々居て、特に男性の多くの方がリビングルームで過ごすことが多くなり、それに皆で過ごすムードづくりになったのかも知れない。男性同士、リビングルームで色々な仕事をしたり、話しをしたり、テレビを見ていた。“よしのだより”が発行され、ホームの行事や生活ぶりをたよりに掲載し、個人の連絡事項も記入する所を設けて、家族に送るようになった。

今年の目標は、利用者・職員共に笑顔で、働きやすい職場にしたいとしている。“あなたのやる気次第で笑顔が出る”が、このホームの生活を明るくしたと言える。大きな飛躍したホームを見る事ができた。

特に改善の余地があると思われる点

介護計画や介護・生活記録はきちっとしたプロセスを踏んで作成しているが、利用者のホームでの生活や残された人生の糧になるものとして、介護計画がその人すべてのシナリオになるよう、24時間の生活に密着したものになるよう更に工夫して欲しい。そして、ホームの自主評価と外部評価がホームの業務改善に繋がったものにしてもらえるようお互いに努力していきましょう。

事業所名

よしの

日付 平成 20年 4月 15日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：毎年の目標が具体的に定まって、職員間で共有しているので、今のままで実行して欲しい。特に改善事項はない。</p> <p>2、全体的に見て…：“利用者・職員共に笑顔で”職員全員で相談して決めたものだ。当たり前といえるが、日常意識していなければ仲々実行できないものだと思う。「あなたのやる気次第で笑顔は出る」という姿勢で仕事につけばホームは明るく、楽しい生活が可能になる。職員が毎日の仕事にやりがいを持ち、利用者の生活ぶりを見て、満足できなければ、その心や表情は利用者が敏感に察知するものである。「利用者も職員も和気あいあい、皆仲良しです。利用者も職員も皆こころばえの人ばかりで、昔から良く知っているの、話しが良く通じる。利用者も良く助けてくれます」とのホームの良さを語ってくれた。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：敷地と建物のハード面は改良することはない。そして、利用者職員との生活臭が染みついてきたと感じるようになった。</p> <p>2、全体的に見て…：広い玄関を入ると、ホームから2つのユニットに分かれて入れるようになっている。平面的な空間なので、両方のユニットの行き交いが自由に行き交える。両ユニットの厨房を使って、両方の調理をユニットに分担して作っているの、食事前は職員が頻りに両方のユニットを通う。それにつれて、調理を手伝う利用者も行き交うようになる。職員やら利用者なのか、外部の人から見れば区別の出来ない人もいる。毎週土曜日は両ユニットの利用者が集まってリハビリをする。建物や土地のハード面をそこに住む人間が有効に使いこなしていることが、ソフト面とハード面が融合して生活を支えている事になる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネジメントは着実に実行しているの、現在行っている業務システムを遂行していく事により、成果がどんどん達成できていくであろう。一つひとつの項目を日々工夫して改良を重ねて欲しい。</p> <p>2、全体的に見て…：病院からホームに来た時は、車椅子で寝たきりに近い状態で、病院で薬や眠剤を服用して能面のような人だったが、医師と相談して薬を抜き、結果フワフワしていた足許がしっかりして歩けるようになった。歩いて動くので、夜も薬なしで良く眠れるし、食欲も増して、身体も太って元気になり、利用者とも仲良くなった。夫婦で居た人が、夫が徘徊と失禁があって他人とは話しなかった人が職員の手厚いケアによって、利用者との馴染みもできて気分的に改善し、徘徊や失禁もなくなった。これらは一例であるが、職員は、人間回復をさせている強力なパワーが存在する。これがグループホームの真の姿である。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：職員は自己研鑽して介護職としての資質向上に努力しており、地域のグループホーム等との交流もしてホームのケアの質の向上に役立っている。更に向上していくためには、外部研修の機会にも多く参加できるように検討していきたいと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者・職員共に近隣出身者が多く、親族や知人が気軽に会いに訪問してくれる。地区の住民はホームにとっても良い感じを持っていると、運営推進会議で民生委員が話してくれた。又、地区の小学校との交流も盛んで、“吉野小だより”をホームに届けてくれ、行事に招待してくれるようになった。生活発表会に行ったら、後日ホームでも児童が来てくれ、利用者皆の為に生活発表会をしてくれ、交流もしてくれた。ホームの納涼祭にも、地域の人、家族等で100人以上の人が集まってくれた。</p>		